

広川町の学校教育

町内の教職員が表彰を受けました

町民交流センター「いこっと」で2月22日(金)、教育活動の充実・発展に寄与した教職員の表彰が行われました。

広川町教育実践研究とふくおか教育論文

広川町教育委員会は昨年10月、教育活動の充実や振興発展に役立てるため、町内の皆さんから教育に関する研究や実践記録を募集しました。

学習指導部門7点、食育指導部門2点の応募のうち、中広川小学校の南嶋里子教諭が優良賞を受賞。表彰式では、3段階のコミュニケーションセッション(ALT↓ペアークラスの友達)により、児童がコミュニケーション

の楽しさを感じられる、という研究成果が発表されました。

福岡県教育委員会でも昨年4月、県内の教職員から「ふくおか教育論文」を募集。広川町教育委員会は学校教育部門6点、学校経営・運営部門1点を推薦し、下広川小学校の堤健治校長が佳作を受賞しました。

福岡県公立学校優秀教職員表彰

下広川小学校の今村洋主



研究を発表する南嶋教諭



表彰を受ける今村主幹教諭

幹教諭が、「福岡県公立学校優秀教職員表彰」を受けました。今村主幹教諭は長年、算数科を中心に努力を重ね、小学校教育に貢献。広川町だけでなく、福岡県全体の教育の充実・発展に期待されるとして表彰されました。

表彰式後には、参加者全員で日ごろの教育活動や今回の研究内容など、教育全般について議論を交わしました。

「広川町教育実践研究」表彰者

研究主題	部門	氏名
コミュニケーションを図る楽しさを感じる子どもを育てる外国語科学習指導	学習	南嶋里子 (中広川小)
期待感を持って取り組む子どもの育成	学習	中尾優花 (上広川小)
本に親しむ子どもの育成	学習	北島由紀 (上広川小)
ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫	学習	水町珠江 (中広川小)
子どもの学習意欲を高め続ける学習指導	学習	牛島 遥 (中広川小)
好ましい人間関係を育てる学級集団づくり	学習	上森未来 (中広川小)
望ましい食習慣を自ら身につける子どもを育てる第5学年学習指導	食育	重野 遥 (下広川小)
生徒一人一人が自らの伸びを実感できる保健体育科の指導法	学習	永井 僚 (広川中)
朝食摂取率の向上と朝食内容の改善を目指す指導	食育	黒木真海 (広川中)

「ふくおか教育論文」表彰者

研究主題	部門	氏名
学校経営の危機管理対応と未然防止の体制づくりにおける校長の役割	経営	堤 健治 (下広川小)
自分の学びを振り返る第5学年算数科学習指導	教育	野口貴生 (上広川小)
自分の考えをつくることのできる子どもを育てる算数科学習指導	教育	勝島夕介 (中広川小)
基礎学力の定着を図る数学科学習指導	教育	甲斐田沙織 (広川中)
社会的事象の意味を多面的に捉え、表現できる子どもを育てる第4学年社会科学習	教育	宮原正尚 (中広川小)
校内担当者としてのフォローアップの在り方	教育	山崎由紀 (中広川小)
自己有用感を育む特別活動	教育	福田寿子 (下広川小)

教職員の表彰と平成30年度の連携の取り組み

問 教育委員会事務局

学校教育係

☎ 09433320093
(内線262、263)

学校と地域・家庭が
連携した取り組み

近年、教育界の大きなテーマとなっている「地域とともにある学校づくり」。地域と学校が連携・協働して、将来を担う人材の育成を図るものです。

これまでの教育は、地域が学校や子どもたちを応援・支援するという、一方向の関係でした。これからはこの一方向だけでなく、地域と学校が相互に意見を出し合い、学び合う関係を目指す必要があります。

広川町では「ふるさと広川に誇りを持ち、変化の激



献血セミナー



いも掘り体験



読み聞かせ会



赤ちゃんふれあい体験



読書リーダー養成講座

しい社会を生き抜く力を身につけ、未来を切り拓いていこうとする子ども」を育てるため、広川町版コミュニケーション・スクール（広川タウン・コミュニケーション・スクール）を進めています。

今月号では、平成30年度の取り組みを振り返ります。

教育週間

最も重要な連携事業の一つ。平成29年度に始めたもので、地域の人の認知度も高まってきました。

各学校はそれぞれの特徴を地域に知ってもらうため、

普段の授業のほか、多くの教育活動を公開しました。

- ・地域を教材とした学習
- ・地域住民が講師となる学習
- ・心を豊かにするための体験学習
- ・キャリア教育のための「持とう『私の夢』講演会」
- ・児童生徒が自分たちの思いを訴える「小中学生意見発表会」
- ・持久走大会 など

中広川小学校では、児童の学力向上と教師の授業力向上を目指し、広川町教育委員会指定の研究発表会を

開催。地元住民57人、保護者168人の計225人が参観しました。参観者からは「学校の説明は少し難しかったけれど、先生が子どもたちのために、さまざまな授業の工夫をしているのが良く分かった」などの感想が寄せられました。

朝のあいさつ運動

数年前の全国学習状況調査で、表現力に課題があると言われた町内の子どもたち。挨拶大使の平岡さんなど、多くの町民が朝のあいさつ運動を続けた結果、広川町学校運営協議会で「元気にあいさつする子どもが

増えた」と報告されました。

安全見守り

子どもたちが安全に登下校できるよう、地域の皆さんや少年指導員、民生委員・児童委員、地元企業の皆さんが、通学路の危険箇所でも子どもたちを見守りました。

これらの取り組みは、連携事業のほんの一部。広川町では学校教育と社会教育の分野で、地域と学校の間がりが強まるよう、さらに事業を進めていきます。